

中村建設

紙ゴミをリサイクル



今回は1000個を製作

中村建設（甲斐市、中村国男社長）は、事務所や作業所で出た紙ゴミをリサイクルしたトイレトペーパーを製品化した。同社の社会貢献の一環として、環境に配慮した資源循環型リサイクル事業として行われているもの。同製品の包装紙は障害者福祉施設で一つひとつ丁寧に巻かれており、障害者勤労機会の増進にもつながっている。

障害者の勤労機会も増進

同社は、社会からの期待や要請に事業活動を通じて応えるためSDGsやDEI（多様性、公平性）を推進し、より良い社会の環境づくりに努めることを掲げている。今回のプロジェクトも、この方針に沿って行われている。プロジェクトは本年1月に企画スタート。5月に第1弾となるトイレトペーパー1000個が完成した。包装紙は社内で作成している。社名や建機イラストのほかに同社の本年度安全スローガン「安全・健康・未来へつなぐ安心職場」が大きく記載されている。

製品ができ上がるまでの過程は、中村建設が事務所・作業所から出された紙ゴミを障害者施設「富士市立くすの木学園」（静岡県富士市）に提供。くすの木学園は紙ゴミについて、再資源化工場を有するコアレックス信栄（静岡県富士市）へ運搬する。トイレトペーパーの製造後は、くすの木学園で包装紙を巻いて完成させる流れとなっている。中村建設では製品を同社社員や協力会、顧客などに無償提供する方針。また災害時の備蓄品として、小・中学校や高校などにも提供するとして、担い手確保につながる考え。中村社長は「今後も継続して進めていきたい」と話している。